

令和3年10月

普及活動報告



シュンギク栽培ハウス（合計約21a）



賀茂なす栽培ほ場（約3a）

第5回京都丹波就農サポート講座（現地経営研修）を開催

（5日）

今回は、地域特産物の栽培や経営実践事例を学ぶため、現地経営研修を開催しました。

本講座の修了生で、就農5年目と8年目の先輩農家のハウスシュンギク、賀茂なすの栽培ほ場を訪問し、主な栽培品目の生産技術や経営上の工夫点、就農後の苦労話などを聞かせていただきました。栽培経験では一歩先を行く先輩農家のお話に、受講生からは「経営上の工夫に感動した」「農業への思いや生活スタイルなどに共感した」などの感想が寄せられました。

普及センターは引き続き、新規就農者の農業基礎技術の習得を支援していきます。

場 所 亀岡市旭町

出席者数 23名

令和3年度受講生：18名（亀岡市：6名、南丹市：5名、京丹波町：7名）

京都府南丹農業改良普及センター

令和3年10月

普及活動報告

南丹地域野生鳥獣被害対策診断チームが現地調査を実施

(京丹波町：11日)



「聞き取り調査票」を基に取組み状況を確認



集落柵の設置状況等を確認

京丹波町坂原区の現地調査では、「聞き取り調査票」を基に、集落柵の設置状況や被害対策及び被害の現状を聞き取りました。その後は被害の大きい箇所を中心に巡回し、現場の地形や集落柵等の設置状況及び獣の侵入経路等を確認し、意見交換を行いました。

集落役員からは「ヌートリアやアライグマ等の小動物対策や、家庭菜園規模でも出来る獣害対策の方法などを学んでいきたい」との声が聞かれ、今後の獣害対策について、意欲を示されました。普及センターは、今後も獣害対策の取組みを支援していきます。

場 所 京丹波町坂原

出席者数 11名

坂原集落農地面積：16.24ha

※南丹地域野生鳥獣被害対策診断チーム：市町、農林センター、振興局及び普及センターで構成

京都府南丹農業改良普及センター

令和3年10月

普及活動報告



講義風景（上：秋冬野菜 下：鳥獣害対策）

秋冬野菜、鳥獣害及び農業気象災害対策の基礎を学ぶ～第4回京都丹波就農サポート講座を開催～

（18日）

新型コロナウイルス感染症に係る緊急事態宣言発出に伴い延期となっていた第4回講座を開催し、秋冬野菜の栽培技術、鳥獣害及び農業気象災害対策について普及センター職員が講義を行いました。

秋冬野菜の講義では、品種や土づくりなどに関して受講生から熱心に質問が出されました。アンケートでは、「収穫残渣なども餌付けになることが分かった（鳥獣害対策）」「大型台風の時、作物を犠牲にしてハウスビニールを外す場合があることには驚いた（農業気象災害対策）」等の感想が寄せられました。

次回が最終回となり、第6回講座の講義と修了式を予定しています。

場 所 園部総合庁舎

出席者数 20名

令和3年度受講生：18名（亀岡市：6名、南丹市：5名、京丹波町：7名）
講座回数：全6回（7月6日から11月8日まで）

京都府南丹農業改良普及センター

令和3年10月

普及活動報告

新品種「ニューサチホゴールデン」の栽培開始に向けて～ビール大麦栽培研修会が開催～

(亀岡市：22日)



9 農家組合代表に新品種栽培のポイントを説明

亀岡市のビール大麦産地では、令和4年産から新品種「ニューサチホゴールデン」に一斉に切り替わるため、亀岡市農業振興協議会主催の研修会が開催されました。

研修会では、JAから令和3年産大麦の栽培実績、精算結果や今後の需給の見通し（供給過剰傾向）などの報告があり、普及センターからは新品種の特徴や栽培のポイントを説明しました。

農家組合長からは「大麦の生産者支払単価が低迷する中、大麦の販売対策や生産調整等も含めて安心して栽培できるよう方針を示してほしい」との意見がありました。普及センターは、関係機関と連携しながら、大麦から小麦への生産シフトなど対応策の検討・支援に努めます。

場 所 JA京都亀岡川東支店

出席者数 19名

【令和3年大麦栽培状況】栽培面積：96ha、荷受重量：288t
(ビール大麦：150t：3年間契約達成、大粒大麦112t)

京都府南丹農業改良普及センター

令和3年10月

普及活動報告



栽培管理について説明



曾我部町タマネギ栽培グループ

令和4年度産タマネギ栽培面積：1.5ha

タマネギの今後の管理について栽培研修会を開催

(亀岡市：25日)

国営ほ場整備事業が進む亀岡市曾我部町では、かつて地域の特産品であったタマネギ生産を再興するため、栽培グループを組織して生産出荷に取り組んでいます。

今回開催した研修会には、栽培グループ構成員36名の内17名が参加され、普及センターから令和3年産タマネギで特に被害が目立ったべと病や貯蔵病害の防除対策を中心とした栽培管理一般に加え、機能性展着剤使用の提案や除草剤の散布時期のポイント等を説明しました。

参加者からは「今まで病原菌の生態を考慮せずに防除をしていたので、非常に参考になった」「機能性展着剤を初めて知った」等の声が聞かれ、積極的な意見交換も行われました。普及センターは、今後も定期的にはほ場巡回を実施し、引き続き地域の特産品づくりに向けて支援していきます。

場 所 曾我部公民館
出席者数 20名

京都府南丹農業改良普及センター

令和3年10月

普及活動報告

黒大豆の採種ほ場審査を実施

(南丹市：26日)



1株ごとにウイルス感染の疑いのある茶しみ莢の有無を確認

令和3年度黒大豆種子生産者：3団体、
ほ場面積：3.15ha

良質な黒大豆種子を確保するため、南丹市日吉町の採種ほにて、ほ場審査を行いました。

優良種子のうち、南丹地域では黒大豆、小豆及び水稲（糯）の種子生産を行っています。黒大豆の葉が黄化し始めたため、莢の茶しみ程度によるウイルス病点検等収穫間際の審査を行いました。

審査終了後、生産者からは「8月中下旬の降雨にも関わらず、採種ほ場の黒大豆は概ね順調に生育し、茶しみ莢株も少なく良かった」との声が聞かれました。

普及センターは種子としての必要な発芽率検査やウイルス（SMV）検査を通じて、優良な黒大豆種子の安定生産・供給を支援します。

場 所 南丹市日吉町

出席者数 10名

京都府南丹農業改良普及センター

令和3年10月

普及活動報告



ほ場でマルチ栽培や来客の対応方法等を聞く



収穫体験に必要な道具類

ほ場整備実施予定：令和7年度
(農地面積10ha)

ほ場整備後の地域営農の経営強化方策の検討 ～観光農園の品目拡大のための視察研修を実施～

(亀岡市：27日)

亀岡市西別院町神地^{こうち}地区における観光農園の新たな品目を検討するため、視察研修を行いました。

神地地区は担い手が少ない集落ですが、直売所を拠点にサツマイモの収穫体験を実施しており、収益向上のためにさらに品目拡大を希望しています。そこで、普及センターは、当地区で栽培経験のある黒大豆を提案し、京丹波町和知地区での取組みについて視察研修を行いました。

参加者からは「少ない人数で実施できること。必要な道具類やマルチを使用した栽培方法等色々と参考になった」

「ほ場整備後に本格的に取り組めるよう、まずは地域の担い手を育成することを目的に取り組んでいきたい」との感想が聞かれました。普及センターでは引き続き、ほ場整備後の経営強化のための支援を行っていきます。

場 所 京丹波町和知地区
道の駅「和」及び
収穫体験ほ場
出席者数 6名

京都府南丹農業改良普及センター